

ポリオプラス・ソサエティ登録証・ピン授与



片平 博己君

米山奨学金授与



米山奨学生 エギアザリヤン カリネさん

幹事報告 -別紙-

幹事 尾関 育良君

祝 福

委員長 田岡 剛君

出席報告

委員 中山 健嗣君

会員数	出席者数	欠席者数	出席率
56名	43名	13名	79.63%

ニコボックス

委員 中山 健嗣君

○川口 円香君、菊 貴世君、大脇 伸二君、イニシエーションスピーチよろしくお願ひします。米山奨学生のカリネさん、ようこそ江南ロータリークラブへ
沢田 昌久、中村 耕司、尾関 育良、佐藤 弘夫 各君

○誕生日をお祝ひいただき、ありがとうございます。
早川 一三君

○誠信高校女子バレー部が8月の全国高校総体(インターハイ)出場を決めました。これからも皆様のご声援をお願いいたします。

伊藤 由香君

○本日のイニシエーションスピーチ、よろしくお願ひ致します。

菊 貴世君

○本日のスピーチよろしくお願ひします。

大脇 伸二君

○6月4日(木)イニシエーションスピーチ 川口 円香君、菊 貴世君、大脇 伸二君、よろしくお願ひ致します! 米山奨学生 エギアザリヤン カリネさん、ようこそ江南ロータリークラブへ!

倉知 正憲、松岡 一成、古田 嘉良、富永 典夫、杉浦 賢二、片平 博己、杵本 哲一、長瀬 晴義、南村 朋幸、波多野 智章、富田 清孝、木本 寛、永田 広光、岩田 進市、三輪 慎一郎、田中 弘一郎 各君

卓話 イニシエーションスピーチ



菊 貴世君

安心して挑戦できる土台をつくる
 ~保険の仕事から、教育・地域・後援会活動へ~

皆さま、こんにちは。
 令和8年1月に入会させていただきました、菊貴世と申します。
 本日は、イニシエーションスピーチということで、私の仕事、これまでの経歴、そして日頃大切にしている考え方についてお話しさせていただきます。私は江南市出身で、江南市で育ち、現在も江南市に住んでいます。

江南女子短期大学付属幼稚園、藤里小学校、宮田中学校、一宮高校と、地元で学び育ってきました。現在は、メットライフ生命で保険の仕事をしており、今年で13年目になります。

主に個人のお客様から、保障だけでなく、教育費、住宅、老後資金、相続、資産形成など、お金に関する幅広いご相談を受けています。

また、法人のお客様の保障設計や、企業の新入社員向けのお金の研修などにも関わらせていただいています。

ただ、最初から保険業界にいたわけではありません。前職はアパレル商社で、若い女性向けの服の生産や販売に関わっていました。渋谷と中国を行き来するような仕事で、今とはまったく違う業界です。

そこからご縁があって保険業界に入りました。最初は、保険というものを「商品」として見ていた部分もあったと思います。

ただ、お客様と長く関わる中で、だんだん考え方が変わっていきました。

保険というのは、ただ加入するものではなく、人生の中で本当に困ったときに家族を守る“最後の砦”の

ようなものだと思っています。
ご主人に万が一があったとき。
病気で働けなくなったとき。
住宅ローン、教育費、老後資金、相続のことを考えなければならぬとき。
そういう場面で、知識があるかないか、準備をしているかどうかで、その後の選択肢が大きく変わります。
私の原点にある理念は、保険業界に入って間もない頃に考えた、
「知って」「納得して」「安心してほしい」という言葉です。
最初はありがたいことに順調でしたが、その後、思うように成果が出ない時期もありました。
その時に、「自分は何のためにこの仕事をしているのか」と考える機会があり、出てきたのがこの言葉でした。
「知らずに」「なんとなく」「とりあえず」加入している保険ではなく、きちんと内容を知って、納得して、「ああ、そうだったんですね。安心しました」と思っていた状態にしたい。
この考え方は、13年経った今でもほとんど変わっていません。
そして最近、この理念が保険だけではなく、少し広がってきたように感じています。
人は、知らないと不安になります。
よく分からないものは怖いです。
不安なまま始めたことは、途中で迷ったり、やめてしまったりすることもあります。
でも、知って、納得して、安心できると、人は一歩踏み出すことができます。
そして、自分で納得して選んだことなら、多少大変なことがあっても、腰を据えて続けられると思っています。
だから今の私の信条は、「安心して挑戦できる土台をつくること」なのかもしれません。
たとえば最近も、投資や確定拠出年金について相談を受けました。
ご本人も、これからは投資も考えていかなければいけない、会社から確定拠出年金の話もあった、ということ分かっている。
でも、やっぱり怖い。不安。よく知らない。
そういう状態でした。
私は、そういう時こそ自分の役割があると思っています。
無理に背中を押すのではなく、まず知ってもらう。納得してもらう。安心してもらう。
そのうえで、一歩踏み出せる状態をつくる。
これが、私の仕事の一つだと思っています。
保険も、投資も、年金も、知らないままだと怖いものになります。
でも、きちんと知って、自分ごととして納得できれば、ただ不安に流されるのではなく、自分で選べるようになります。
私は、お客様に何かを無理に選ばせたいわけではありません。
その方が、自分や家族にとって何が大切なのかを整理して、納得して選べる状態を一緒につくりたい。そこを大切にしています。
本業の保険以外にも、私はいくつかの活動をしています。
教育委員会の後援をいただいて実施した子ども向

けのお金の教室、新入社員向けのセミナー、生命保険業界での活動、そしてジュニアゴルファーの福井誠ノ介くんの後援会などです。
こうして並べると、少しバラバラに見えるかもしれませんが。
ただ、自分の中ではすべてつながっています。
子ども向けのお金の教室では、ただ「貯金しましょう」と伝えるだけではありません。
自分が本当にほしいものは何か。今使うのか、あとで使うのか。
お金を使うということは、何かを選ぶということでもあります。
子どものうちから、知って、考えて、自分で選ぶ経験をしてほしい。
そういう思いで、お金の教育にも関わっています。
大人になってからお金で困る方の中には、能力がないわけではなく、ただ学ぶ機会がなかっただけという方も多く感じます。
保険も、投資も、住宅ローンも、年金も、知らないまま決めると怖いものになります。
だからこそ、子どものうちから「お金は怖いもの」ではなく、「自分の人生を選ぶための道具」として知ってほしい。
そういう意味でも、私の理念とつながっています。
新入社員向けのセミナーでも、同じようなことを感じています。
社会人になったばかりの方にとって、給与明細の見方、毎月の収入と支出、使途不明金の考え方などは、とても身近なテーマです。
でも、意外と誰も丁寧に教えてくれません。
若いうちに少し知っておくだけで、将来の選択肢は大きく変わります。
ここでもやはり、知って、納得して、安心して、一歩踏み出せる状態をつくることを大切にしています。
そして、私が関わっている活動の中で、この「安心して挑戦できる土台をつくる」という考え方が一番表れているものの一つが、ジュニアゴルファーの福井誠ノ介くんの後援会です。
誠ノ介くんは、世界ジュニアゴルフ選手権で2度優勝している選手です。
私はその後援会で、会長を務めさせていただいています。
この話をすると、よく
「なぜ菊さんが後援会長をしているのですか」と聞かれます。
正直に申し上げると、私はもともとゴルフにもものすごく詳しいわけではありません。
ラウンドした回数も数えるほどで、ましてやゴルフコンペを主催した経験もありませんでした。
そんな私に、誠ノ介くんのご両親から後援会長のお話をいただきました。
最初にお話をいただいたときは、正直、「なぜ僕なんだろう」と思いました。
私はゴルフ関係者ではありません。
保険の担当者です。
普通に考えれば、大切な息子さんの後援会長を、保険の担当者をお願いするというのは、なかなかないことだと思います。
ただ、同時に思いました。
世界で挑戦しているジュニアゴルファーを近くで

本日は、このような貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございます。
まだ入会したばかりで、皆さまの顔とお名前もこれから少しずつ覚えさせていただく立場ではございますが、まずは私という人間を少しでも知っていただければと思い、自己紹介をさせていただきます。私は、1972年2月3日生まれ、愛知県江南市出身です。
生まれも育ちも江南市で、現在も江南市に住んでおります。
家族は、妻と息子3人の5人家族です。
仕事は、江南市で「ガレージダイシン」という自動車関係の会社を経営しております。
主な仕事は、自動車の钣金塗装、修理、車検、新車・中古車販売、保険など、自動車に関することを幅広く行っております。
もともと私は小さいころから車が好きでした。ただ、最初から車の仕事に就いたわけではありません。
高校卒業後、中日本自動車短期大学へ進みましたが、当時は正直に言うところ「どうしても自動車の学校へ行きたい」というよりは、進路の流れの中で入った部分もありました。
ところが、入ってみると車の面白さにどんどん引き込まれていきました。
学生時代からサーキット走行会にも行くようになり、車がただの移動手段ではなく、自分にとって大きな魅力のあるものになっていきました。
卒業後、21歳の時には一度、営業職に就職しました。安全保護具や消耗品などを扱う営業の仕事です。しかし、やはり心の中には「好きな車に関わる仕事がしたい」という思いがありました。
そして24歳の時、自動車钣金塗装工場へ転職しました。
そこから本格的に自動車業界に入り、経験を積み、35歳の時にガレージダイシンを創業しました。
創業したのは2007年です。
最初は妻と2人でのスタートでした。
お客様も多くいるわけではなく、仕事も会社も、何もかもが手探りでした。
当時は作業ができるのは私だけでしたので、妻には本当に苦勞をかけました。
小さかった三男をおんぶしながら洗車を手伝ってくれたこともあります。
今思えば、よくそこまでやってくれたなと思います。
創業当初は、とにかく目の前の仕事を一生懸命やるしかありませんでした。
お客様に喜んでいただくこと、信頼していただくことができました。
2011年には株式会社GTSとして法人化し、現在は創業から20年目を迎え、従業員も18名ほどになりました。
ここまで来られたのは、自分の力だけではありません。
家族、社員、お客様、取引先、地域の皆さまのおかげだと感じています。
会社の理念としては、
「常識にとらわれない想像力と、努力を惜しまぬ探求心で、次世代に対応したサービスを提供し、地域社会に貢献する」
という思いを大切にしています。

そして経営の中で大切にしていることは、技術だけではなく、人間らしさです。
お客様に喜んでいただくことを常に想像し、すべてのことに感謝できる心を持ち、仕事を通じて自分自身も人間形成をしていく。
そんな会社でありたいと思っています。
また、私は2017年に江南市倫理法人会に入会しました。
最初は、正直に言いますと倫理法人会というものをよく分かっていませんでした。
朝早くから集まる会だということも、入ってから知ったくらいです。
きっかけは、当時の江南市倫理法人会の会長さんが突然会社に来られたことでした。
同業の大先輩でもありましたので、ほとんど即決で入会しました。
それから事務長、副会長を経験し、2025年9月より江南市倫理法人会の会長を拝命しております。
倫理歴としては9年目になります。
倫理法人会で学んできたことは、挨拶や感謝、家庭を大切にすること、社員を大切にすること、そして何事も前向きに受け止めることです。
最初は学びというよりも、正直、朝早く起きて参加する会という感覚でした。
しかし、続けていくうちに、自分の人生の中で経験してきたことと、倫理で学ぶことが重なる部分が多いと感じるようになりました。
今日はその中でも、私の人生観を大きく変えた出来事について、少しお話しさせていただきたいと思います。
私の講話のテーマとして、以前から「普通という最高の幸せ」という言葉を使っています。
人は、何か特別なことが起きた時に幸せを感じると思いがちです。
事業がうまくいった、良い車を買った、旅行に行った、美味しいものを食べた。
もちろん、それも幸せです。
でも私にとって一番の幸せは、家族が普通に家にいて、普通にご飯を食べて、普通に笑っていることです。
朝起きて、今日も家族が元気であること。
仕事に行けること。
社員が出勤してくれること。
お客様が来てくださること。
そんな当たり前の毎日こそが、実は最高の幸せだと感じています。
そう思うようになった大きなきっかけが、長男の病気でした。
創業して2年ほど経った頃です。
当時、長男は小学6年生でした。
高熱が続き、江南厚生病院に入院しました。
検査をしても原因がなかなか分からず、一度は退院しました。
しかしその後、再び39度を超える高熱が出て、背中が痛いとのたうち回るような状態になりました。
再度病院へ行くことになりましたが、長男は2回目ということもあり、大泣きました。
仕事の途中で家に戻り、泣き続ける長男を抱きしめて、私は
「大丈夫、父さんが治してやる」と言いました。

その時は、本当にそう思っていました。
父親として、何とかしてやりたい。
何があっても守ってやりたい。
そんな気持ちでした。
その後、検査の結果、白血病と診断されました。
さらに名大病院へ転院し、急性リンパ性白血病、のちに小児フィラデルフィア染色体陽性リンパ性白血病と分かりました。
当時、会社はまだ創業間もない時期です。
従業員も少なく、仕事も家庭も、すべてがこれからという時でした。
そんな中で、生活は一変しました。
妻は月曜日から土曜日まで、病院に泊まり込みで長男に付き添いました。
私は次男と三男と一緒に生活しながら、会社を回すことになりました。
病気になると、家族の生活も、会社の予定も、すべてが狂ってきます。
それでも、止まることはできません。
長男の治療、次男三男の生活、会社、社員、お客様。
すべてを何とか回していかなければなりません。
その中で感じたのは、感情的になっても何も良くなるらないということです。
もちろん不安もあります。
怖さもありません。
でも、父親として、経営者として、自分が今できる最大限のことを考えるしかありませんでした。
長男は抗がん剤治療を受け、骨髄移植のためのドナーを探すことになりました。
家族の中では適合せず、骨髄バンクに登録しました。
幸いにも、奇跡的にドナーが見つかり、骨髄移植を受けることができました。
2010年1月、骨髄移植は成功しました。
そしてその年の7月、退院することができました。
しかし、そこで終わりではありませんでした。
退院後も合併症に苦しみ、入退院を繰り返すことになりました。
特に肺の合併症が悪化し、酸素が必要な生活になりました。
トイレに行くだけでも、まるで100メートルを全力で走った後のように苦しくなる。
ベッドから簡易トイレに移るだけでも大変。
そんな状態になりました。
そして2013年頃、岡山大学病院の先生との出会いがありました。
肺移植が必要だという話になりました。
余命の話も出ました。
肺移植には、私と妻がドナーになることになりました。
親として、やれることがあるなら何でもやる。
その気持ちでした。
もちろん、怖くなかったと言えば嘘になります。
自分の体にメスを入れるわけです。
妻も同じです。
長男も大きな手術を受ける。
3人同時に手術室に入るといって、大きな決断でした。
2013年5月、岡山大学病院で肺移植の手術を受けました。
12時間以上にも及ぶ大手術でした。
そして、手術は成功しました。
今振り返っても、本当に多くの方に助けられました。

病院の先生方、看護師さん、骨髄を提供してくださいましたドナーの方、支えてくださった皆さま。
そして、何より家族。
あの時の感謝は、今でも忘れることはありません。
この経験を通して、私は大きく価値観が変わりました。
それまでは、仕事を大きくしたい、成功したい、もっと良くしたいという思いが強かったと思います。
もちろん今でも会社を良くしたいという気持ちはあります。
しかし、その土台には「普通に生きていられることへの感謝」があります。
人は幸せな時ほど、幸せに気づかないものだと思います。
家族が元気でいる。
ご飯が食べられる。
仕事ができる。
笑える。
そんなことは、失いそうになって初めて、本当のありがたさが分かります。
倫理法人会で「苦難福門」という言葉を学びました。
苦難は幸福に入る狭い門である、という意味です。
長男の病気は、できれば経験したくなかった出来事です。
誰にも経験してほしくありません。
しかし、その苦難があったからこそ、今の自分の考え方があります。
家族への感謝、社員への感謝、地域への感謝、命への感謝。
それを本当の意味で感じるようになりました。
当時は倫理を深く学んでいたわけではありません。
でも、どんな時も、わずかな可能性を信じて前に進んできました。
できることを一つずつやってきました。
その積み重ねが、今につながっています。
そして、このたびロータリークラブにも入会させていただきました。
ロータリーのことは、これから学ばせていただく立場です。
ただ、地域に根ざし、職業を通じて社会に貢献するという考え方は、自分の仕事やこれまでの学びとも重なるものがあると感じています。
私は江南市で生まれ、江南市で育ち、江南市で商売をさせていただいています。
地域の方々に支えられて、今があります。
だからこそ、これからは少しでも地域に恩返しできる人間になりたいと思っています。
私の人生は、決して順風満帆ではありませんでした。
創業の苦労もありました。
家族の病気もありました。
会社の中でも、いろいろな問題がありました。
でも、その一つ一つを乗り越えてきたからこそ、今があります。
そして今思うのは、苦しいことが起きた時に、それをどう捉えるかで人生は変わるということです。
もちろん、最初から前向きになんてなれません。
苦しい時は苦しいです。
不安な時は不安です。
でも、その中で「今できることは何か」を考え、一歩ずつ進んでいく。
そうすれば、いつかその経験にも意味があったと思える日が来るのではないかと考えています。

私が皆さまにお伝えしたいのは、特別な成功談ではありません。
 大きなことを成し遂げたという話でもありません。
 ただ、普通に暮らせることは、決して当たり前ではない。
 家族が元気でいること、仕事ができること、人と笑って話せること。
 それこそが、最高の幸せだということです。
 これからロータリークラブの一員として、皆さまから多くのことを学ばせていただきたいと思います。
 まだ分からないことばかりですが、地域のため、人のために少しでもお役に立てるよう、精一杯努めてまいります。
 どうぞこれから、ご指導のほどよろしくお願いいたします。
 本日はご清聴いただき、誠にありがとうございました。

川口 円香君

株式会社川口通商は、愛知県江南市を拠点に全国対応の物流サービスを展開する運送会社です。一般貨物輸送や長距離配送を得意とし、安全・確実な輸送と柔軟な対応力でお客様の物流を支えています。熟練ドライバーによる高品質なサービスで、地域と全国を結ぶ信頼の物流パートナーです。

点 鐘

会長 沢田 昌久君

本日の食事



6月2日(火) IDM 於 toi toi toi
 SAA プログラム委員会 例会運営委員会



5月30日(土) 春季米山奨学生学友合同研修会
 於 ミツカンミュージアム等



6月4日(木)新会員歓迎会 於 涵梅舫



6月5日(金) 東尾張分区 現・次期会長 幹事会
於 名古屋東急ホテル



会報掲示板



My ROTARY

※ログインしてご覧ください。

(担当: 委員 伊藤 由香)